

2023年第3回(9月)市議会報告

●9月議会一般質問項目●



- 国分寺市議会議員**
まつおか **松岡まり**
- 1 香害について
 - (1)これまでの取組状況
 - (2)現状の把握
 - ①健康に関する相談や問い合わせ
 - ②各課の取組
 - (3)周知・啓発
 - 2 子育て支援について
 - (1)ファミリー・サポート・センター事業
 - (2)保育施設
 - ①保育のニーズ
 - ②保育の多様性と質の向上について
 - 3 インクルーシブな公園について
 - (1)ファミリー・サポート・センター事業
 - (2)保育施設



- 国分寺市議会議員**
こさか **小坂まさ代**
- 1 図書館について
 - (1)読書バリアフリー法について
 - (2)まちづくりの視点から新しい恋ヶ窪図書館を考える
 - (3)歴史資料のデジタルアーカイブ化について
 - (4)市立図書館、都立図書館と学校図書館との連携について
 - (5)学校司書について
 - 2 元町地域の緑と水辺について
 - (1)元町用水について
 - (2)野川について
 - (3)国3・4・11号線周辺まちづくりの視点から
 - 3 学校に行けない、行かない子どもと家庭への支援について
 - (1)不登校児童・生徒、家庭への支援の現状について
 - (2)スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーについて
 - (3)子ども自身の声を聞き、寄り添った支援を



- 国分寺市議会議員**
たかせ **高瀬かおる**
- 1 市民生活と来年度予算について
 - 2 地球温暖化対策について
 - (1)市民・事業者・大学等と気候変動について学ぶ機会の拡充
 - (2)断熱植物調査から樹木や草の植栽計画を
 - (3)空き家・空き地について
 - (4)学校や公共施設、住宅の暑さ対策について
 - ①断熱改修や遮熱塗料について
 - ②アスベストに係る取組について
 - ③断熱ワークショップの実施を
 - ④熱中症対策について
 - 3 障害福祉と高齢福祉について
 - (1)相談支援体制の充実について
 - (2)人材育成や研修の実施を
 - (3)介護者がレスパイト等できる取組を
 - ①障害者日中一時支援について
 - 4 有機フッ素化合物について
 - (1)井戸水の調査について
 - ①PFHxSの検査追加と調査地点の拡大を

建設資材の高騰や納品の遅れ、さらには現場の人材不足など、建設業界は厳しい状況ですが、市役所新庁舎の建設は予定通りに進んでいるということです。来年12月には完成予定ですが、現在、分散している執務室が新庁舎へ移転することで、空いた空間をどのように活用するか検討が始まっています。

今議会では、いずみプラザの「利活用基本方針(案)」が示され、子ども家庭支援センターと子育て世代包括支援センターの相談機能を統合した「子ども家庭センター」が設置される方向です。また、社会福祉協議会に委託する重層的な支援体制や権利擁護、生活困窮者支援などの相談・福祉機能を集約し、さらに災害医療体制の拡充を図るとしています。新庁舎や医師会、消防署が集中する立地を活かし市民サービスを向上させる必要があります。同様に、ひかりプラザについても今後検討されることとなります。それぞれの地域性や市民意見を反映し、市民が納得できる取組を求めます。

地球環境を心地好いものに

国分寺市では、第二次国分寺市環境基本計画に基づき、自然、地球、生活、都市、教育等の分野における環境についての施策を実施しています。現在、2025年度から始まる第三次計画の策定中であり、話し合いが行われています。また、地球温暖化については(仮称)国分寺市地球温暖化防止行動計画(市域版)も、今年度策定予定となっており、これは今まで生活者ネットワークで提案し続けてきた

ターと子育て世代包括支援センターの相談機能を統合した「子ども家庭センター」が設置される方向です。また、社会福祉協議会に委託する重層的な支援体制や権利擁護、生活困窮者支援などの相談・福祉機能を集約し、さらに災害医療体制の拡充を図るとしています。新庁舎や医師会、消防署が集中する立地を活かし市民サービスを向上させる必要があります。同様に、ひかりプラザについても今後検討されることとなります。それぞれの地域性や市民意見を反映し、市民が納得できる取組を求めます。

(高瀬かおる)

もので、市で初めての試みです。策定にあたり、市民ワークショップやアンケート調査等が行われています。

この夏は大変な酷暑であり、地球温暖化とも言われています。国分寺市の二酸化炭素排出量は、家庭からのものが大きな割合を占めるということです。一刻一刻と変化していく地球環境を、自分や自分の周りの人すべてのいのちが心地よく暮らしやすいものにしていくため、声を出していくことは大切なことです。市の取組を知り、自分の周りの環境について、一緒に考えてみませんか。

(松岡まり)

市民の活動を協働の視点で支援を

市民ニーズが複雑化・多様化する中で社会をつなぎ直すには、市民との協働が欠かせません。空き家を活用した居場所づくりや、子ども食堂など、市民活動が活発に動き始めている。お茶を飲みながらくつろいだり、やりたいことができる場所は、人と人をつなげ、暮らしの安心や生きやすさにもつながりますが、地域に根ざしていくには時間がかかり、活動場所の確保や家賃の捻出が厳しいと声があります。そこで、こうした活動に対し、運営費や家賃の一部を補助することを提案しました。担当からは、「市民活動の場について相談があった場合には、公共施設をご案内している。提案型・公募型協働事業が活用できる」との答弁がありました。協働事業では、施設の使用料も経費として認められますが、申請は容易ではありません。近隣自治体では子育て関係の市民活動に対して補助をしている事例があります。行政が担えない、市民だからこそその活動を協働の視点で支援することが重要だと。

(高瀬かおる)

地域の情報資源の拠点としての図書館を

図書館は、本を読んだり借りたりするだけの場所ではなく、知る・学ぶ権利を保障するための重要な社会教育施設です。

国では、障害の有無に関わらず、すべての人が読書できる社会を目指し、2019年に「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」(通称「読書バリアフリー法」)が施行されました。国分寺市では、大活字本や点字図書、デジタル録音図書の貸出しのほか、対面朗読や郵送サービス等を実施しています。昨年夏から導入した電子図書は、来館する必要がなく、文字の大きさを変えたり内容を音声で聞くことができますが、登録者数はまだ1300人弱です。障害福祉課や学校と連携し、必要な方が利用できるよう周知を求めました。

また、福祉センター、本多武道館、恋ヶ窪公民館などともに現庁舎跡地に移転する恋ヶ窪図書館です。基本設計が現在進んでいます。融合し新しい価値を生み出す複合的施設という視点を、設計やデザインに生かしてほしいと要望しました。

(小坂まさ代)



「りんごの棚」
特別なニーズのある子供たちを公共図書館サービスに誘うための一手段

障害の有無にかかわらず誰もが楽しめる本のコーナー「りんごの棚」設置の検討を求めた

本来の意味でのインクルーシブな公園づくり

8月の建設環境委員会で、黒鐘



8月、インクルーシブ公園の整備候補「黒鐘公園」を視察

池からみる豊かな緑の環境
セミの合唱に癒される。
環境への影響の調査も求めた

公園の北側がインクルーシブな公園の整備候補地として挙がっていました。これまで検討されてきた西元町二丁目の候補地は、国の史跡指定地であり遊具の設置が難しいとの理由により断念したようです。インクルーシブな公園は、コミュニティの拠点となるのが大事な視点と考えます。この公園づくりの意義について質問し、国分寺市全体的に人を大切にすまちな宣言を、まね、障害の有無を問わず、誰もが一緒に安全に遊べる公園をコンセプトとしていることを確認しました。候補地には、樹木や草が元気に茂っていて、虫の声も響いています。緑地や通路などを極力残して整備することですが、自然も遊具も含めたインクルーシブな公園を要望しました。また、公園整備に関する市民懇談会では子どもの意見を聞く機会を設けてほしいと要望しました。今後の動向を見たいと思います。

(松岡まり)

誰もが利用しやすいホールへ改修を

いずみホールの施設維持管理について、2022年度はスタインウェイのグランドピアノの買い替えや指定管理者の変更など変化の大きい年でした。委託費は前年度より2400万円増となりましたが、稼働率も上がりAホールは70.2%、利用者の満足度アンケートでも100%

とのことでした。一方で2020年度に長寿命化の改修工事設計を行ったにもかかわらず、工事が延期され続け、設計を含めたスケジュールの見直しについて未だにめどが立っていない状況です。いずみホールは駅前であり利便性が高く、多くの市民に親しまれている施設ですが、トイレに入るのに階段があったり、大人用のおむつ替え用ベッドがないなど、困っているとの声が目立ちます。子ども



や高齢者、障害のある方の利用もあるため、優先度の高いバリアフリー化工事については、できるだけ早く実施することを求めています。

(小坂まさ代)



生活クラブ運動グループ地域協議会が認知症に対する理解をすすめる講座を2回開催しました。

認知症サポーター養成講座 10月27日

講師をもとまち地域包括支援センターにお願いし、東元町に今年6月に開設した居場所「にわには」(東元町1丁目)で行われました。東京都の高齢化率(65歳以上の人口)が23.5%、国分寺市は21.9%というデータが表示され、高齢になるにしたがって認知症になる率もあがりますが、前向きにとらえようということを知りやすく話していただきました。



認知症模擬演技者による講座 10月3日

講師をアビリティクラブたすけあい模擬演技研究会にお願いし、「家族が認知症になったら」をテーマにいずみホールで開催しました。認知症になっても「できること・やりたいことを大切にしましょう」という説明があり、模擬演技者を相手に「久しぶりに帰ったら、家はゴミだらけ」「財布がない、あなた知らない?」という状況で、参加者が対応してみました。本人の不安な気持ちに沿った会話が望ましいとのことでした。模擬演技者の2名ともが90歳ということにも感心の声があがっていました。

